

## 藤井市長就任記者会見（令和3年4月26日）

### ■ 就任挨拶

市長

皆さんおはようございます。

このたび、富山市長に就任いたしました藤井裕久です。

よろしくお願いいたします。

本日は、市長就任の記者会見ということでご案内申し上げましたところ、お忙しい中、このようにお集まりいただき、ありがとうございます。

今後、報道関係の皆様方には、大変お世話になることも多いと思っておりますけれども、何卒よろしくお願い申し上げます。

今回の市長選挙を通じて、大変多くの皆様から、温かいご支援、ご支持をいただいたということ、そして、森前市長の後継として、県都富山市の市政運営を担うこととなりました。この重責をひしひしと感じているところであります。

本日の初登庁の際には、大変多くの市民の皆様や職員の方から温かい歓迎をいただき、大変感動いたしました。

人口減少・超高齢社会の進行に加え、新型コロナウイルス感染症の拡大など課題は山積しておりますが、市政の舵取りを担う責任の重さということを改めて感じている次第であります。

また、先ほどの就任式では、幹部職員の方々を前に、市民重視、現場重視、スピード重視の姿勢を貫き、「幸せ日本一とやま」の実現に向けて、一丸となって取り組んでいこうと呼びかけさせていただきました。

今後、職員の方々とともに、コンパクトなまちづくりのさらなる深化やスマートシティの推進、そして、喫緊の課題である新型コロナウイルス

感染症対策などに全力を挙げて取り組んでまいります。

富山市は、これまで多くの先人と市民の皆さまの弛みないご努力により、日本海側有数の中核都市として発展してまいりました。

森前市長が情熱を注いで取り組んでこられた、「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」をはじめとした市の包括的な政策は、様々な方面から大変高い評価を受けております。

また、基礎自治体としての究極の使命である市民お一人お一人の生活の質を高め、都市の格を高めるとともに、市民のシビックプライドをさらに醸成することにも成果を挙げてこられたわけであります。

これまで私は、県議会議員として、およそ 10 年間にわたり、県民・市民の皆様のもとに赴いて、様々な声を直接お聞きし、(それを) 県政に届け、その政策に反映すべく、議員活動を行ってまいりました。

今後は、市政の最高責任者として、より多くの市民の皆様の声に丁寧に耳を傾け、理解と信頼を重ねながら、現場重視、スピード重視、市民重視の姿勢で、市民の皆様に幸せを実感していただくとともに、市外の皆様からも高く評価していただけるよう、市政運営に注力してまいります。

今月 23 日から、富山県では、新型コロナウイルスの独自の警戒レベルが「ステージ 2」に引き上げられたところでございます。

また、昨日(4月25日)には、政府による緊急事態宣言が<sup>みたび</sup>三度発令されたところであり、依然としてウイルスの感染力は衰えを見せる気配がなく、社会全体が何とも言えない閉塞感に苛まれていると感じております。

しかし、そうした中でも、必ずウイルスに打ち克つ日が来ることを信じ、アフターコロナ社会においても、本市がさらなる発展を遂げ、市民の皆様が希望を抱き、安心して暮らすことのできる富山市であり続けることができるよう、全身全霊で市政を推進してまいります。

市政に対する変わりないご支援、ご鞭撻をどうかよろしくお願い申し上げます。冒頭のご挨拶に代えさせていただきます。

どうかよろしくお願い申し上げます。

---

## ■ 質疑応答

### 記者

前任の森市長は強いリーダーシップでコンパクトシティ政策を推し進め、全国的にも注目されてきました。藤井新市長は今後、どのような市政を目指されるのか、また、ご自身のカラーをどう出していくのか、考えをお聞かせください。

### 市長

森前市長におかれましては、旧富山市の市長として1期3年余り、合併後の新富山市長として4期16年の合計5期、19年余りにわたって、そのリーダーシップを大いに発揮され、富山市を大いに前進させてこられたということで、改めて心から敬意を表する次第であります。

とりわけ、その代名詞とも言えるコンパクトシティ政策では、昨年3月の路面電車南北接続事業の完成によって、約100年間分断されてきた富山市の南北がつながったところであります。

市内に15kmにわたるLRTネットワークが完成し、次世代に引き継がれる都市構造が構築できたと考えております。

また、都心地区と公共交通沿線の居住推進地区への居住誘導や、中心市街地活性化のための各種施策を積極的に推進してこられ、このことによって、都市の賑わいが戻ってきたと認識しております。

こうしたコンパクトなまちづくりに取り組まれた結果、人口の転入超過や地価の上昇が連続しており、固定資産税や都市計画税の税収が増加し、中山間地域をはじめとする富山市全域への税の還流が始まっているという成果が見えていると評価しているところであります。

ちなみに人口の面ですが、平成 20 年以降、13 年連続で転入超過となっており、また住宅地の地価は平成 27 年以降、7 年連続で平均変動率が上昇しているという実績がございます。

そして、コンパクトシティ政策以外にも、環境分野や SDG s といった分野においても多方面から高い評価を受けていると認識しています。

加えて、雇用や教育、子育て、環境、文化など、包括的な施策を展開された結果、都市の総合力が高まったということでもあります。

また、市民一人一人の生活の質を高めることに注力された結果、9 割近い市民の方々が、住み続けたい富山市であると評価しておられ、市民の皆さんのシビックプライドも確実に向上してきていると認識しているところであります。

一方で、私がこの選挙期間中や県議会議員活動を通して聞いた話ではありますが、郊外にお住まいの方々からは、自分の住む地域に活気がなくなつたとか、中心部ばかりが発展していてどうも納得がいかないとか、これは生の声でありますので、こういう声をよくお聞きしたこともまた事実であります。

そこで、今後の市政運営においては、人口減少や超高齢社会に対応するため、基本であるコンパクトシティ政策はしっかりと継承し、深化させていきたいと思っております。

これを基本として、郊外にある拠点や域内の二次交通等のサービスを充実させること、そして、デジタル化の推進による市民サービスの向上などを通じて、コンパクトシティ政策の果実を全市にいきわたらせることで、さらに多くの市民の皆さんが「幸せ日本一」の富山市に住んでよかったと、自分たちの子どもや孫にもこの地域に住んで生活してもらいたい、と思っただけのような市政を進めてまいりたいと考えております。

自分のカラーにつきましては、中々すぐに「これをやります」と大きく

変えて出せるものではないと思いますので、これからしっかりと職員の声も聞きながら、私の地域に対する思いや市政に対する考え方を十分にお伝えしながら、一つ一つ政策に取り組む中で、しっかりと自分のカラーが出てくると思っています。

また、私自身も県議会議員を 10 年間務めさせていただき、政務調査会に 6 年間所属して、市民・県民の皆さんの声をしっかりと聞いてきたところでもあります。

さらに、青年会議所や商工会での活動を通して、地元の商店街の皆さんや製造業、かなり大きな企業の経営者の皆さん等、民間事業者の方々とのつながりもしっかりと作ってきたところでもあります。

加えて、大学等の専門教育機関の皆さんの知恵もお借りしながら、しっかりとスクラムを組んで、連携しながら前に進んでいき、その中で自分のカラーというものが少しずつ出てこればいいかなと考えております。

---

## 記者

選挙期間中から、市長は「幸せ日本一とやま」を目指すと繰り返し訴えてこられたわけですがけれども、改めて、「幸せ日本一」とはどのような状態を指すのか、具体的にイメージされているものをお聞かせください。

## 市長

幸せの価値観というものは、個人それぞれによって違うものでありますが、市民の皆さんが自分の幸せや夢に向かって努力していることに対して、寄り添い、後押しをして、応援していくということは、これは政策であると思います。

それが市長なり市役所の使命であると訴えてまいりましたし、このことにしっかりと取り組んでいきたいと考えているわけでもあります。

まず一つは、セーフティネットとしての安全・安心、医療・福祉の充実ということについても、森前市長が取り組んでこられた政策をしっかりと前に進めていくこと、政策を通して実現していくということでもあります。

また、若い方々が夢や希望を持って起業にチャレンジするというような環境をさらに整えていく、必要であれば経済面でもしっかりと応援していくこと（が大事であり）、あるいはコロナで進学をあきらめるとか、自分が本当に行きたい大学は県外の大学なのだけれどもお金がかかるのであるというような（事情で）、いろいろな希望を曲げて就職されるという方も出てきたわけでもあります。

富山市は昨年、富山で働きながら学ぶ生き方に対する奨学資金（の貸付制度）を設立しましたがけれども、これは市がお金を出し、そこに企業からの賛助金を合わせて基金を作るというものです。

こういうものをさらに充実させるなどして、具体的に自分が学びの場で、働きながらでもしっかりと学べる、学び直しができる、県外へ行っても奨学金といった支援をしっかりと受けられるように環境を整えていくというようなことで夢の応援をしていきたいと、政策を通して実現していきたいということです。

#### 記者

先ほどお話がありましたが、市職員に対しては現場、市民、スピードを重視してほしいと求めておられます。こうしたことを求めた背景、思いについてお聞かせください。

#### 市長

先ほど申し上げましたとおり、自分自身が県議会議員として政務調査会に6年間所属して、最後の2年間は政調会長として政策のとりまとめをしました。

地域、団体、企業の要望をとりまとめて、それを県当局や、必要に応じて当該市町村へ（伝え）、そして我々で解決できないことは国へ要望したり、その頃（の私）は自民党の議員ですので党本部へ直接要望したりする

わけであります。

こうしたことを通じて、現場に問題があつて、それを現場で解決しながら、住民自治の中でがんばっている方というのはたくさんおられるわけです。

富山県、富山市はそういう方々の努力によって支えられているということが基本ですので、とにかく現場に赴いて、現場を見て、一緒に問題解決に取り組むというのは、県議会議員のときも、市長になっても変わらない姿勢であります。

今までも富山市の職員はそういう姿勢でおられますけれども、情勢が刻一刻と変わっていく激変の時代でありますので、さらに現場へ赴くとか、市民の皆さんの声をしっかりと聞くといったことを大切にしないと、市全体としての一体感は醸成できないということだと思いますし、また、良い施策が実行できないということですので、このような姿勢を貫いてほしいと思います。

私自身が率先垂範して、その範を示していきたいと思っています。

記者

確認ですが、森市政の継承、「深化」というのは深めるということですね。

市長

そうです。コンパクトシティを継承して、深めていく「深化」で、スマートシティへの「進化」、これは人間が進化していく「進化」であります。

=====

記者

先ほどのご挨拶の中でも、まず取り組むべきことは新型コロナ対策だということでした。

県では警戒レベルが「ステージ 2」に引き上げられましたが、これからゴールデンウィークを迎えるにあたり、市民にお願いされたいことがあればお聞かせください。

また一方で、経済対策にも力を入れるということですが、今、具体的に考えていらっしゃる事があれば、合わせてお聞かせください。

市長

まず、昨年来、医療従事者等のエッセンシャルワーカーの皆さんには大変苦勞をおかけして、今もなお現場で頑張ってくださいに心から感謝を申し上げる次第であります。

また、残念ながら新型コロナの感染症で命を落とされた方々もいらっしゃいます。心からご冥福をお祈りいたしますとともに、病院やご自宅で待機しながら感染症と闘っていらっしゃる患者さんの一刻も早い回復を願っております。

経済対策ということですが、まず第一に、常日頃言うておりますように、新型コロナワクチンを遅滞なく市民の皆さんに提供していくことが経済対策との両立につながっていきますので、まずは新型コロナワクチンをしっかりと供給していきたいということが市長なり市役所の責任であると思っております。

そして私は、このたびの市長選での公約の中で、緊急対策として「コロナに打ち勝つ！」というものを挙げていたわけですが、この中にも経済的に疲弊している家計、ひとり親家庭の皆さんに対しての経済的な支援ということがあります。

このことは、就任早々ではありますけれども、しっかりと取り組んでいきたいと思っております。

飲食や観光、地域交通の事業者の方々は、ゴールデンウィークに向けて期待していたところが、新型コロナの感染拡大で大変辛い思いをされているわけです。

ここは何とか市民の皆さんのご協力を得て、感染拡大防止のために、密にならないような行動をとっていただくこと、感染しやすい行動は避けていただくことなど、感染対策をしっかりといただくということが第一であると思っております。



そして、事業活動に大きな影響を受けておられる方々には、国や県と協力しながら、今までの森市政で取り組んできたことも含めて、職員としっかり話をしながら、スクラムを組んで取り組んでいきたいと思っています。

記者

今ほど、ひとり親家庭への支援ということをおっしゃいましたが、これまで市が行っているように現金を給付するということをお考えなのでしょうか。

市長

そういう形になるかどうかは別にして、基本的にはそういうダイレクトに届く形で、今、職員と相談しています。

=====

記者

新型コロナワクチン接種について、富山市では今日 85 歳以上の方へ接種券が発送され、この後も段階的に（発送が）続きますが、他の自治体では接種予約等の手続面で混乱が続いています。

富山市でそうしたことが起こらないように、具体的な方策を何かお考えでしょうか。

市長

ワクチンがいつ届くのか、いつ接種できるのかという声は大変多く聞いております。

まずは、富山市の医療従事者の方々や医療現場の方々としっかり連携し、その声も聞きながら、しっかりと進めていきたいと思えます。

また、このことについては、県や周辺市町村との連携も欠かせないわけでありますので、しっかりと連携しながら情報交換を密にして取り組んでいくことが大事だと思っています。

また、市民の皆さんが混乱をきたさないよう、わかりやすい情報を開示していくことも大事だと思えます。

報道も、我々もそうでありますけれども、正確な情報というものは断片

的にしかつかめていないわけですので、市民の皆さんに対して、いつ頃に、  
どういうふうに接種が始まっていくという行程表について、過去の実績も  
含めて、今どの段階まで進んできているということなど、これも職員の知  
恵を借りながら、わかりやすく情報の開示を進めてまいりたいと思います。

記者

今おっしゃった行程表というのは、高齢者向けの接種だけではなくて、  
その後の全体に関するものということでしょうか。

市長

そうですね。全体のスケジュールについて、国も県も市も、概ね今年い  
っぱいには接種していただけるようにするということですので、現場の声  
をしっかりと聞きながら、情報をわかりやすく開示していきたいと思っ  
ています。

記者

森前市長が先の退任会見で富山市議会議員の皆さんに対して、他自治体  
の市議会や先輩議員の質問をよく学んで勉強してほしいというようなこ  
とをおっしゃっていたのですが、市長から富山市議会議員の皆さんに、ご  
自身の議員経験も踏まえて期待されることがあればお聞かせください。

市長

先般の（市議会議員）選挙においては、新人の議員も多く当選されたわ  
けであります。

二元代表制で、どちらも直接選挙で選ばれますので、議会のことをとや  
かく言える立場にはないと思っておりますが、私自身が議員を経験している  
という立場から言いますと、やはり先人の方に学ぶことは多いわけです。

私も今、新人の立場ですけれども、まずはしっかりと勉強していくとい  
うことで共に取り組んでいきたいと思っております。

どの方もやる気満々の方ばかりですので、大変期待しております。

---

※発言内容を一部整理して掲載しています。・・・富山市広報課